

職員による自己評価

A環境面

- 利用定員とスペースの関係は適切。
- 職員配置数は「どちらともいえない」が、大半。
- バリアフリーは、現利用者に影響が出ていない。
- 第三者評価が、出来ていない。
- PDCA サイクルに関心を持つ者が増えて来ている。
- 研修に関しては、必要最小限になっている。

B 児童への支援内容

- 活動プログラム・打合せ等、療育活動には多くの者が関心・自信を持っていた。
- アセスメントツールを使い、サービス計画の見直しや支援内容の改善などを意識する者が増えている。

C 関係機関との連携

- 他（児童館など）との交流は無いが、保護者・学校との連携・情報の共有化は、図られている。
- ペアレントトレーニングについては、知識が少ない。

D 保護者への説明責任・信頼関係

- 説明責任・信頼関係は適切と考えている。

E 非常対応

- 定期的な避難訓練を行えるようになったが危機感は薄い。
- マニュアルの作成を適切に行い周知させる。
- 虐待についても意識が高まってきている。

保護者による評価

A環境面

- 活動スペース・職員の配置については、「適切」の回答が多い。
- バリアフリーについては、「どちらとも言えない」が大半。

B 児童への支援内容

- サービス計画・プログラムともに支持されている。
- 他（児童館など）との交流は求められていなかった。
- 「地域の方々との交流が充実」との意見があった。

C 事業所からの情報発信

- 保護者への・共通理解・支援については、各 70%以上の支持があった。
- 保護者同志の関連は、「あまり意識していない」等の意見がある反面、「欠席時の懇談会の内容が知りたい」等の意見も見られた。

D 非常対応

- 避難訓練の様子をお便りに載せる等した結果として保護者の方々の理解を得られ始めた。

E 満足度

- ほぼ支援には満足して頂けているが、中高部では高校生が増え内容に変化がほしい所かもしれない。

事業所内での分析

【共通点】

- 事業所での活動プログラム等は保護者・職員共に適切と判断している。
- 保護者への説明等は保護者・職員共に適切と判断している。
- 学校休業日・長期休暇（夏・冬休み）等の支援内容に保護者・職員共に意識が高まっている。

【相違点】

- 大きな相違点は無いが、バリアフリー化の配慮・児童クラブや児童館との交流・保護者同士の連携・緊急時対応マニュアル等、「どちらともいえない」の声が多く、保護者との意思疎通面がこれからも課題としてあげられる。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- 訓練室等、スペースが十分にとれ環境面が満たされている。
- 活動プログラムの企画・運営等、しっかりと行われている。
- 開所5年になり、保護者との信頼関係も築け始めた。
- 地域の方々の理解と交流がある。
- 個別支援型・中高生だけの事業所もあり、一人の児童を多角的な方向から支援できる。

事業所の改善点

- PDCA サイクル（目標設定・振り返り）を意識し、全職員で取り組む。
- 職員のスキルアップ・資質向上につながる研修に力を入れる。
- 非常時対応マニュアル・各ご家庭への連絡体制を確立する。
- ガイドライン周知の他、療育について職員一人ひとりの意識を高める。
- 地域資源の活用。

事業所の改善への取り組み

- バリアフリー化の配慮・児童クラブや児童館との交流・保護者同士の連携・緊急時対応マニュアル等、「どちらともいえない」の声が多く、保護者との意思疎通面がこれからの課題としてあげられる。
- 研修の内容・場を更に広げる努力をする。
- 参加者の多少にかかわらず懇談会等を開催し、保護者との意思疎通を図る。
- 事業所の支援・活動について広く職員に周知し、共有する。
- 地域資源を活用した活動を大切に、地域からの理解・交流を深める。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今さらではあるが保護者の方々に見守られての5年間であった。小学生から高校生までと幅広い年齢層の子どもたちと向き合い、様々な支援力を要求され日々手探りで悪戦苦闘してくれている職員にも感謝しなければならない。

子どもたちを思っただけのこれまでだったが、クリームソーダをここまでしてくれたのは保護者の方々、子どもたちは勿論、中心となって頑張ってくれる若すぎるスタッフたちなのを痛感した1年だった。

「クリームソーダの子どもたちを何よりも大切にしてくれる」そんなエースたちに、心からのエールを送れる事業所にしたい。